

0歳児～5歳児の言葉に関する目安となる姿一覧

●聞く ○話す ◆読む △書く

	0歳		満1歳		満2歳		満3歳
発達 の道すじ (言葉)	クレーイング 喃語が出る 母親の声の区別ができる 話しかける人の目や口元をじっと見る 大人の呼びかけに反応する	指さしのはじまり 喃語と意味が一致する 象徴機能 大人の言葉に対し首振りなど動作で応える 拒否を表す片言を使う 要求や拒否を喃語や動作で表現	初語、一語文を話す 大人の言葉をオウム返しする 友達の名前がわかる 助詞を使う 友達の名前を呼ぶ	二語文を話す 物の名前を何でも知りたがる 発音が明瞭になり、語彙が著しく増加する 自分のことを名前で言い始める	簡単な文章を話す 問いと答えの関係が成立する 赤ちゃん言葉から大人の言葉への移行のはじまり 意欲や欲求を言葉で表す 形容詞を使い出す 一次性吃音が現れることがある	話し言葉の基礎ができる 自分のことを一人称で話す 自分の気持ちを短い言葉で伝える	
発達 の道すじ (情緒)	社会的微笑の芽生え あやしてもらおうと笑い返す 不快感の芽生え 抱っこされると泣き止んだり 安心した表情をする 生理的的微笑 親を認知し始める	特定の人に愛着を示す 8ヵ月不安 人見知り、夜泣き 後追い 三項関係の成立 自己意識の芽生え 感情の分化 大人の表情を参照する バイバイなどに反応する 嫉妬の感情が表れる	自分でしようとする欲求 だだをこねる かみつきがでることがある	自我の芽生え 「～ではない、～だ」の思考がで き始める 気持ちを立て直すことができは じめる 嫉妬心が強くなる 得意、すねる、不安など高度な 感情表現	自我の育ち 「いや」「もっと」など自分の要 求を意思表示するようになる 「じぶんで！」と自我を主張 する 社会的参照(他の人の感情 表現を行動の基準にする)	自己主張する 自分を中心にしたものの考え 方をする 他者のモデルを自分の世界 に取り入れる(まねっこ)	自我がよりはっきりする 自立への意欲の高まり 誇り、恥、罪悪感など色々な 感情がほぼ出揃う 愛着行動の内在化 社会性の発達 はじめての人や物に不安が 見られることがある 心の葛藤から指吸いなど体 に関する癖がでることがある
わらべ うた ・ 手遊び	●保育者の顔をじっと見る ○機嫌良く「あー」「うー」など言う	●○保育者の歌を聴き、にこにこしたり、声を出す	●手を叩いたり動作を真似る	○簡単な言葉を真似る	○一緒に口ずさむ	○覚えて繰り返し歌う	
絵本	●保育者の膝の上で喜んで絵本を見る	●○保育者の顔を見て「あっ、あっ」と指差しする	●読み聞かせに合わせて、「もぐもぐ」などの動作をする ○興味のあるものを指差し「ブーブー」「ワンワン」などと言う	●○繰り返しの言葉、オノマトペの響きやリズムを楽しみ真似る ○保育者の簡単な問いかけに答える	○分からないものを「これ、なに？」と質問する	●短い時間集中して見る ●○絵本を見て、思ったことを伝える	●○保育者や友達と楽しい、怖いなどを共感する ○疑問に思った事を「なんで?」「どうして?」と質問する
ごっこ 見立て	●○保育者の言動「いただきます」「ありがとうございます」などに合わせ仕草で表す	●○保育者の話す「まぜまぜ」「ゴシゴシ」「ピョンピョン」などの言葉や仕草を真似る	●○「ちょうだい」「どうぞ」「おいしい」など、保育者の仲立ちで友達と仕草や簡単な言葉でやりとりする	●○日常生活で身近な人がしている言動を真似る	●○保育者や友達がなりきってする言動に興味を持ち、真似て遊ぶ	●○自らの経験をもとに店員、客など役割を意識し「いらっしゃいませ」「○○ください」など、言葉を使ってやり取りをする	
朝の会 お集まり			●○名前を呼ばれて手をあげたり返事をする	●○名前を呼ばれて返事をする ●○朝のあいさつを仕草でする	●○朝のあいさつをする	●友達の休みがわかる ●今日の遊びの話聞く	●○保育者の簡単な質問に答える

●聞く ○話す ◆読む △書く

	3歳児		4歳児		5歳児	
発達 の道すじ (言葉)	「なんで?」「どうして?」と何でも質問する 時制の表現が現れる	話し言葉の一応の完成 相手を二人称で呼ぶ 自分の気持ちを長文で伝える 汚い言葉を多用することがある したいこと、してほしいことを保育者に動作や言葉で伝えようとする 「かして」「いれて」「ありがとう」「ごめんね」など遊びや生活に必要な言葉を知り、使おうとする 自分が見たこと、聞いたことを話す	自分の意思を理由と共に主張する まあまあ、ちょっとなど中間の言葉を使う 幼児語がほぼなくなる	順序立てて話ができる 言葉を使って思考する(内言) 経験したことを思い出しながら接続詞を使って話す 助詞を正しく使う 音節分解がわかる	会話に文脈がみられるようになる 体験をもとにその時の感情を言葉で表現する 相手の状況に応じた言葉を使う カ行、ラ行、サ行の発音が明瞭になる	書くことに興味を持つ
発達 の道すじ (情緒)	自我がよりはっきりする 自立への意欲の高まり 誇り、恥、罪悪感など色々な感情がほぼ出揃う 愛着行動の内化 社会性の発達 初めての人や物に不安になることがある 心の葛藤から指吸いなど体に関する癖がでることがある	自意識の芽生え けんかが増える 思いやりが発達する 小さい子への配慮が出てくる できる、できないで揺れ動き不安になる タオルや人形など、頼るものを持ち歩くことがある	自制心のあらわれ 「～だけれども～する」ことができる 新しい活動に意欲的に挑戦しようとする	人間関係の中で感情の調整ができる 仲間同士で助け合う姿が見られる 理由がわかって納得して行動する 友達と協力して役割を理解して果たせるようになる 年少者の世話をしようとする 思考力の芽生えが出てくる	思いが深まり感受性が豊かになる 相手の気持ちを推測できるようになる 多面的に自己や他者を評価できるようになる	
絵本	●絵本の内容に興味を持って聞く ○「なんで?」「どうして?」と興味関心をもって尋ねる ◆絵を見て想像し、簡単な言葉や覚えていた言葉で自分なりに読む	●クラスの友達と最後まで静かに聞く ○見つけた事や気づいた事、感じた事を保育者に伝える	●絵本の内容を自分なりにイメージしながら聞く ○内容を理解して、感じた事や気づいた事、疑問に思った事を保育者や友達に話す ◆友達と一緒に見たり、自分でみたりする	●自分の経験を思い出したり、想像を膨らませながら聞く ○印象に残った言葉、場面、人物について話す ○言葉の持つ響きやリズム、面白さに気づき、真似る ◆指で文字をたどったり、分からない字を教えてもらいながら読む ◆興味をもったことを図鑑でみる	●登場人物と自分を同化して考えたり想像を膨らませながら聞く ○感想や気付きを相手にわかるように伝え、友達の話も聞く ○分からないこと、疑問に思ったことを図鑑などで調べ、伝える ◆指で文字をたどりながら友達と一緒に読む	●話の内容を想像しながら素話を聞く ○発見したことを結果や予想(考え)を含めて話す ◆読める文字を追いつつ自分で本を読む
ごっこ 遊び ・ 劇遊び	●○保育者や友達の話す言葉を聞き、真似る ●○日常生活で使う簡単な言葉で友達とやりとりをする	●○友達とイメージを共有し、簡単なやり取りをする ◆生活の中にある文字、数字に興味を持ち保育者に尋ねる	●○社会生活(病院、買い物、お出かけなど)の中で覚えた言葉を使って、友達とやりとりをする ◆生活の中で覚えた文字、数字、マークを読む	●○場面に合った言葉を使い、友達とやりとりし、新しい言葉を覚えて使う ●○考えたこと、感じたことを友達と話し合い、イメージを共有する	●○友達とイメージを共有し協力して遊びをすすめる ◆遊びに必要な看板などの文字や数字を読む △知らない字を調べたり、保育者や友達に聞いたりして書く	●社会事象に関する言葉を知り、その場にあった言葉に気づく ●○思いを友達に伝え、遊びの状況や展開と一緒に考える ◆△遊びに必要なものを書いたり、書かれていることを読んでみる
朝の会 ・ 生活	●今日の出来事など、5分程度の簡単な話をじっくり聞く ○名前を呼ばれて返事をする。 ◆友達のマークを覚える	●友達の話を聞く ○身近な内容のインタビューに答える ◆友達の名前やおもちゃの名称を読む	●○友達や保育者の話を聞き質問をする ◆日付や曜日、天気などを唱える ○約束や歌の歌詞を唱える	○経験したことを自分なりの言い方で話す ◆書かれた単語を目で追い唱える	●興味を持った話に頷く ○いつ、誰と、どこへなど順序立てて話す ◆知っている文字を読む △手紙や作品など、必要な時に自分の名前を書く	○その時の気持ちを含めて経験を話す ◆書かれた文を目で追い唱える △数字や書ける文字をボードに書く △書き言葉と話ことばの違いに気づく △当番表など生活に必要な文字を書く

●聞く ○話す ◆読む △書く

	3歳児	4歳児	5歳児	
言葉集め しりとり		<ul style="list-style-type: none"> ●友達の言った言葉を聞き、自分の知らないものの名前を知る ○「あ」のつく言葉を探して言う ●保育者の話や友達の答えを聞きながら「しりとり」の遊び方を理解する ○「ん」が最後につかないように考え答える ◆出てきた言葉を保育者が文字で書くのを見る 	<ul style="list-style-type: none"> ○「あ」のつく言葉をいくつか言う ●○しりとりで友達や保育者とたくさんの言葉をつなげる ◆書き出した言葉を見て、同じ文字があることに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ●大人に聞いたり、本を見たりして言葉を集める ◆書き出した言葉をみんなで読み、いくつか集まったかを数える △書ける文字を書く
なぞなぞ	<ul style="list-style-type: none"> ○紙芝居など絵で見てわかるものや、身近で簡単な内容のなぞなぞ(質問)に答える ※見えるものについての、なぞなぞ(質問)に答える 質問に答える経験をする「○○はな～んだ」 	<ul style="list-style-type: none"> ○●なぞなぞの質問に答える ※目の前に見えない物(思い出して考える物)も織り交ぜる 	<ul style="list-style-type: none"> ○●なぞなぞの質問に答える ※答えが出ない場合は、ヒントを出す 	<ul style="list-style-type: none"> ●友達の出すなぞなぞの答えを考える ○なぞなぞの出題をする ●友達の出すなぞなぞについて質問する ○なぞなぞの出題をし、ヒントを考えて言う
かるた	<ul style="list-style-type: none"> ●読み札の言葉を聞いて絵札を取る ※身近なものを題材にし、言葉数の少ないかるたを使用 競争ではなく、かるた取りが理解でき、絵札を取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●読み札の言葉を聞いて絵札を取る ※物語や動作の入ったもの、言葉数の多いかるたを使用 	<ul style="list-style-type: none"> ●読み札の言葉を聞いて絵札を取る ※物語や動作の入ったもの、言葉数の多いかるたを使用 ◆絵札の頭文字を探す ○●読み札や絵札の内容を話しあう(かるた作り) △知っている文字を書く(かるた作り) ◆読み札に関心を示し、一文字ずつ追いつきながら読む 	<ul style="list-style-type: none"> ●読み札の言葉を聞いて絵札を取る ※物語や動作の入ったもの、言葉数の多いかるたを使用 ◆絵札の頭文字を探す ○●読み札や絵札の内容を話しあう(かるた作り) △知っている文字を書く(かるた作り) ◆読み札に関心を示し、一文字ずつ追いつきながら読む
すごろく	<ul style="list-style-type: none"> ●マスの内容を読んでもらい、駒を動かす ※マス数が少なく、内容の簡単なすごろくを使用 ○勝ち負けなど、簡単なゲームの内容を保育者に話す 	<ul style="list-style-type: none"> ●マスの内容を覚え、駒を動かす ※マス数やマスの内容が増えたもの、ルールが複雑すぎない物を使用 ○友達の駒の動きなど気が付いたことを友達に話す 	<ul style="list-style-type: none"> ●マスの内容を覚え、駒を動かす ※マス数やマスの内容が増えたもの、ルールが複雑すぎない物を使用 ○友達の駒の動きなど気が付いたことを友達に話す 	<ul style="list-style-type: none"> ◆○マスの内容を読み、友達と確認して駒を動かす ※マスの内容が多様なすごろくを使用 ●○どのようにすごろくを作るか、話し合う(すごろく作り) △「1回休み」など、決めた言葉をマスに書く △知らない文字を調べ、真似て文字を書く

発達の道すじについて

「保育と絵本 発達の道筋にそった絵本の選び方」 瀧 薫 エイデル研究所

「犬山市カリキュラム」 2014年3月 犬山市